

# 南カナリア諸島ランサローテ島とラ・パルマ島の火山洞窟

The Caving Journal, No. 50: p. 17-25, April 2014

本多力

NPO 法人火山洞窟学会 (東京都)

## 1. はじめに

スペイン領カナリア諸島を構成する島であるランサローテ島 (Lanzarote) とラ・パルマ島 (La Palma) の火山洞窟の紹介をしたい。ランサローテ島はカナリア諸島の中で最もアフリカ大陸に近い場所に位置している火山島である。モロッコのすぐ横にあり、朝マルセイユを発てば、マドリッド経由で午後にはやくには現地に着く距離にある。一方、ラ・パルマ島はアフリカ大陸から最も離れた位置にある北大西洋上の島で、諸島の西北端に位置する。図1に配置図を示す。

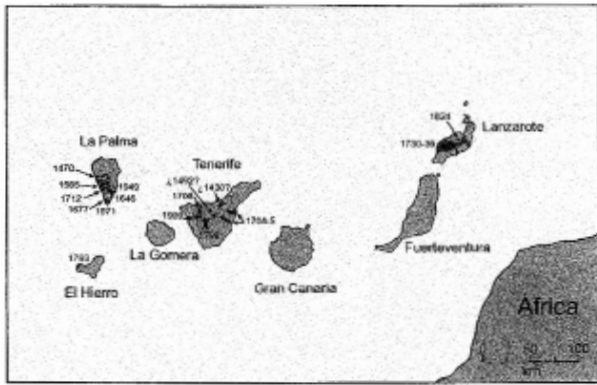


図 1.1 カナリア諸島の配置図 (参考文献1) より引用)

## 2. ランサローテ島の火山洞窟

ランサローテ島は平坦な砂漠に火山が噴出しているように見える島で、上空から見ると緑が少なく荒涼としており、飛行機で着陸するときあたかも宇宙船で月面から火星に着陸するような気分にとられる、地球上で稀有な地域である。アフリカ大陸に近い乾燥砂漠気候のため植生がとぼしく、グーグルによる上空写真では噴火口や溶岩流そのトレンチや天窓などが手に取るように見える場所である。

車で2時間もあれば、北端から南端まで到達できる大きさの島である。道路はよく整備されているが交通の便はよくないため、レンタカーなしでは自由な移動は不可能である。

ランサローテ島の訪問の目的は二つある。一つは3000年前～5000年前に噴火したといわれている、島北部にあるコロナ火山から流れた大量の溶岩から形成された一連の溶岩洞窟システム、ヴェルデス洞窟とアクア洞窟 (両者とも観光洞窟) と、その他の観光化されていない洞窟 (総延長は8.65kmといわれている)、およびその溶岩原を観察すること。もう一つは歴史的に記録されている1730年～1736年にかけて、

大量に溶岩を流出させた島南部にあるテイマンファヤ国立公園内にある噴火口列と、その溶岩原や火山地形の観察である。海岸側に4kmほど溶岩を流して海側山川両方に広大な溶岩原を形成しており、溶岩が大量に流れたと思われる巨大なトレンチの痕跡が幾つかくっきりと残されている。この領域は立ち入り禁止となっており洞窟についてはいまだ十分に調査されていないようであるが溶岩流の長さと同じく4kmほどの洞窟が多数あると推定されている。

### 2.1 コロナ火山の溶岩洞窟

コロナ火山の溶岩流中の洞窟は、あまり植生の発達していない溶岩流に沿って、スカイライトと洞窟が溶岩流の流れに沿って連なっているのが、グーグル地図によってはっきりと観察できるめずらしいな地域である。図2.1にコロナ火山と海岸へ向けて流れた溶岩流とスカイライトが並んでいるのを示す。

噴火口からスカイライトが海岸に向かって並んでいるのがわかる。海岸部に近い部分に観光洞窟であるアクア洞窟 (右側) とヴェルデス洞窟 (左側) の開口部がある。アクア洞窟は観光洞窟であり、ランサローテ島のリゾート人気スポットである。図2.2にアクア洞窟の平面図を示す。

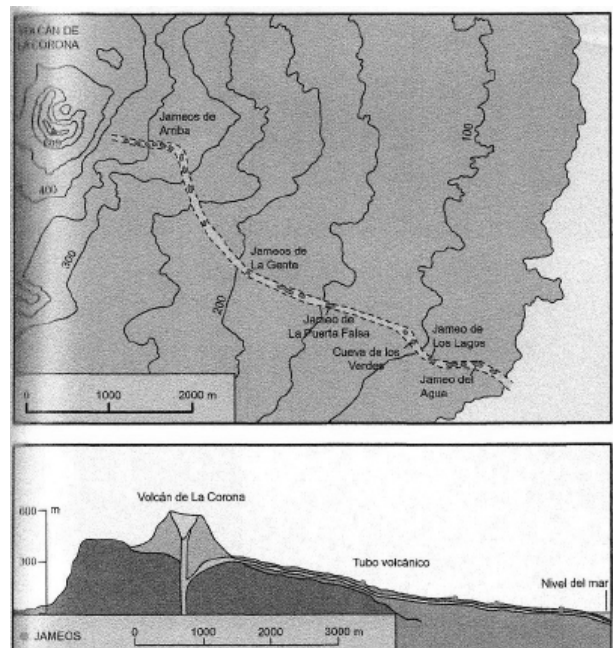


図 2.1 コロナ火山噴火口から海岸部までの溶岩流とスカイライトの断面図と平面図